

高齢者等除雪支援事業に関するアンケート結果 【協力者版】

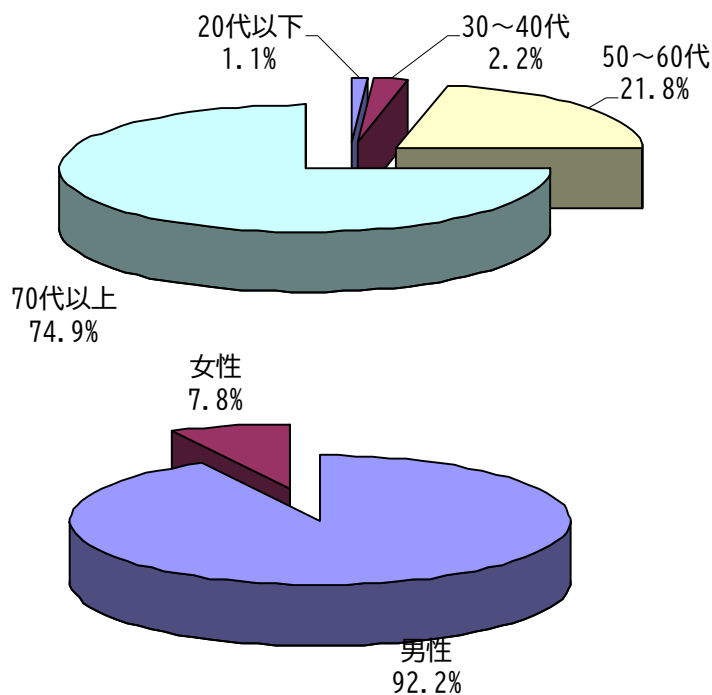
アンケート形式及び標本数等

アンケート送付日：

調査方法：アンケート用紙郵送→記入→返信用封筒での回答

回答率：63.6%(回答数：180 名／送付数：283 名)

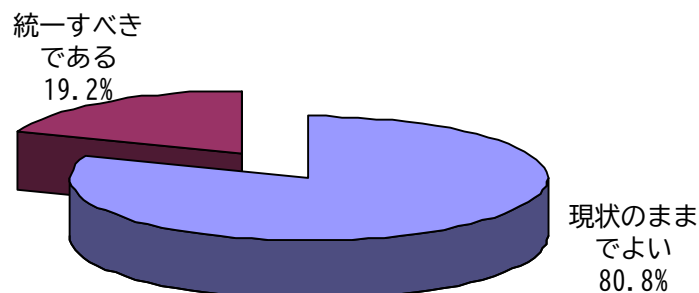
問1， 2 協力者の年代， 性別



全体の3／4が70代以上であり，50代以上を含めると96.7%にもなる。主な協力団体となっている町内会の担い手が高齢化していることを如実に現しており，このままでは当該事業の継続的な運営は難しいと考えられる。

また，男女の構成も92.2%が男性という結果になっている。

問3 協力費の統一について

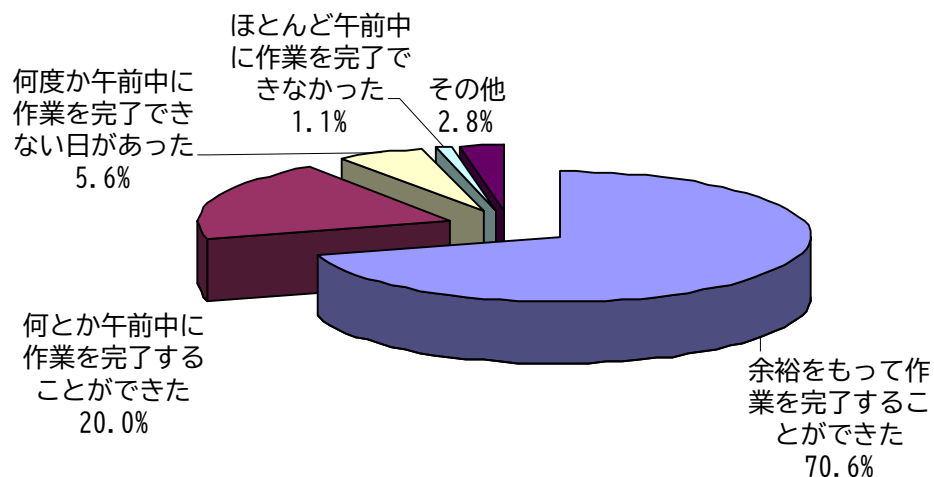


「現状のままでよい」という意見が8割を超え、概ね協力費については納得が得られている様子である。しかしながら、R3年度においては降雪量が少ないこともあり、作業が少なかったことを考慮に入れる必要がある。

協力団体向けのアンケートにおいても72.7%の団体が「現状のままでよい」と回答していることから、概ねの理解は得られていると考えられる。

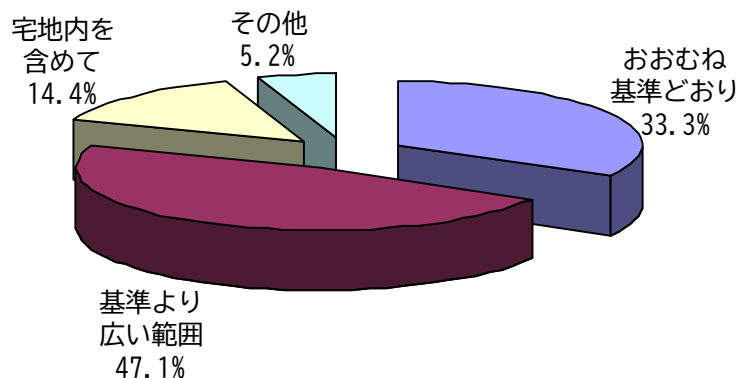
「統一すべきである」と回答した19名に、統一すべき金額について確認したところ、シーズンあたりの金額を記入してくれたものの平均値は約7,000円であった。この中には、現状の最低価格である5,500円よりも安い5,000円と回答した者が3名もいた。また1回500円と、福祉除雪と同額を記入した協力者も見られた。

問4 除雪作業の時間



作業時間については、道路除雪作業終了後から午前中までに完了することをお願いしているが、それについて質問した項目である。7割の方が時間的に余裕があったと回答しており、午前中に終えることができたものを含めると90%を超えている。

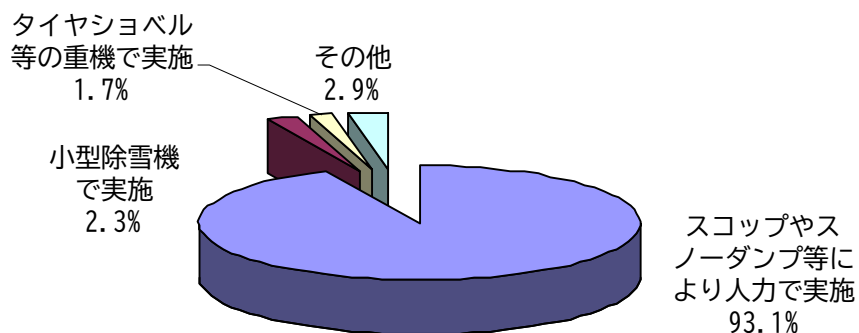
問5 作業範囲



「住宅の敷地入り口部分に面した市道を、おおむね1.5m幅」という基準範囲に対して実際に作業を行った範囲について質問した。基準どおり行った者は全体の1

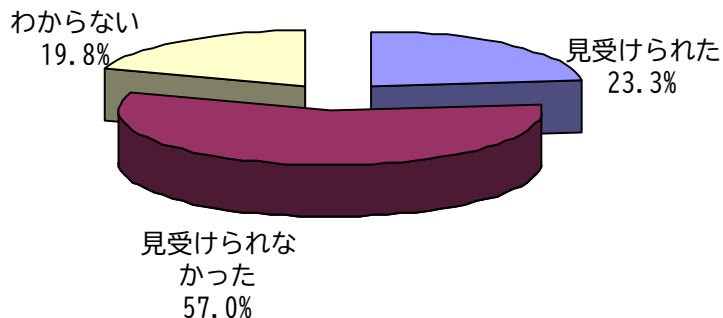
／3に過ぎず、6割以上の者が基準の範囲を越えて除雪を行ったと回答している。さらに、7人に1人は宅地内を含めて除雪を行っており、社会福祉協議会で行っている福祉除雪と重複する範囲で作業が行われている事がわかる。福祉除雪とは将来的な一体化について検討すべきであると考えるが、当該事業が住宅前道路除雪事業と福祉除雪との接点になりうることを伺わせる結果となった。

問6 主な作業手法



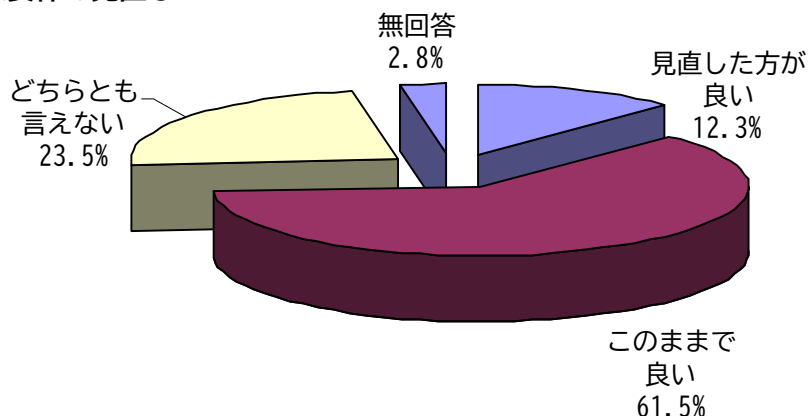
作業手法について確認したところ、9割以上の協力者が手作業で行っていることを確認した。作業を行った54の地域団体のうち、46の地区は対象者数が10名以下であることもあり、作業機械の導入は数%にとどまっている。

問7 支援が必要のない世帯の存在



自力または家族等の協力で除雪することが困難な世帯が対象となっているが、実際には支援が必要のない世帯が含まれているとの指摘もある。このため、実際に作業を担った協力者に、支援が必要のない世帯はなかったかと質問したところ、23.3%が「見受けられた」と回答している。同じ質問を協力団体に行った際、46.3%が同様の回答となっており、協力者よりも協力団体の方が支援が必要のない世帯が多いという印象を持っていることが伺える。

問8 対象要件の見直し



今年度 70 歳から 79 歳の高齢者について、要支援 1 以上とするなど対象要件の見直しを行っているが、さらなる要件の厳格化について質問したところ、6 割以上が現在の要件のままで良いとの回答であった。

問9 対象世帯からの反応

対象世帯からの意見等について自由記載で質問したところ、回答を寄せた 106 名のうち 73 名、約 7 割が好意的な反応があったと回答している。一方で 9 名の方が基準範囲以上の除雪をすることを要求されており、地域住民同士の交流を促進しているものの、基準以上の作業を依頼されている。また対象世帯から反応がないことを訴える回答もあり、地域住民同士であるだけに様々な軋轢が生じていることが伺える。

・もっと広く除雪して欲しいとの希望もある。大雪の時にやってほしいとの希望あり。

要望はきりが無い

・担当は三世帯ですが、昨年、今年も対象世帯者と一度も顔もみた事もない。挨拶もない。残念です

・一日中降っている場合 2～3 度除雪するが、お金儲けだと言われた事

問10 取組で工夫した点

早めに除雪する、LINE を活用するなど協力者の連絡など様々な工夫をしたことが回答されているが、ここでも基準範囲以上に除雪したという回答が、回答をしたのあった 53 名のうち 11 名に上った。

・仕事の関係で、夕方になる時もある旨を事前に説明しておいた

・担い手不足で苦労している

・協力者同士ラインを活用して「除雪の有無を確認」した

問 11 取り組んで良かったこと

取り組みを行ってみて、良かったと思う点について質問した。質問に対して記載のあった回答 81 件のうち、1/3 に当たる 27 件が対象者などから感謝されたと回答している。また 24 件が地域住民との交流拡大を、8 件が高齢者の見守りが出来たことを回答しており、取り組みに参加することで、町内会活動にとって良い影響があったことを実感していることが確認できた。このことは取り組みに参加する町内会等をふやすためには有効な回答であり、地域住民に対する理解を得たい企業や団体にとっても同様であると考えられる。また、5 件ではあるが、誰かの役に立ったことが良かったという回答を寄せているが、このような感想は、自らの有用感に自信が持てないでいるステップアップ支援事業の対象者や障がい者作業所などの方が取り組むことで良い影響が出ることが期待できる。

- ・町民同士でもみんなで助け合う気持ちが醸成されることが非常に良いと思う
- ・身勝手な隣人が多いことが判った点が良かった
- ・あまり口をきいたことの無い人と会話をするようになった
- ・自分の健康に良い
- ・作業者の自己有用感

問 12 改善した方が良い点

非常に回答はまちまちであるが、当日の朝の連絡が遅いという意見が 6 件、若い人に参画して欲しいというのが 4 件見受けられた。協力費の単価について、統一した方が良いという意見もあれば、現在の単価は高すぎるという意見もあり、協力者によって受け取り方は分かれた。

- ・協力費の地域格差を是非ともなくしていただき、全市統一した協力費とすることを願いたい
- ・対象世帯の道路に面している所が全て除雪の対象になり、間口だけでは済まないないので間口除雪という言葉がおかしい
- ・協力費の金額設定が妥当か検討すべきだと思う。例えば、同じ業務を民間業者に委託した場合の相場など調べてはどうか。（もらい過ぎ！のような気がしている）
- ・センターからの知らせはもう少し早くコール願いたい（6:00 前希望）
- ・間口の除雪が出来ない人は自宅の玄関前から道路までも除雪が出来ない人なので、玄関前までを含めての除雪になりました

問 13 苦勞した点

回答のあった 63 件の内、17 件が排雪場所の確保に苦勞したと回答している。当該事業は除雪の支援のみを行うものであり、排雪についての支援はないことから、この問題は起こりうる。また、5 件は問 12 と同様に連絡が遅い点が指摘されており、現

役で仕事をしている方は、仕事に間に合わないという意見も回答している。

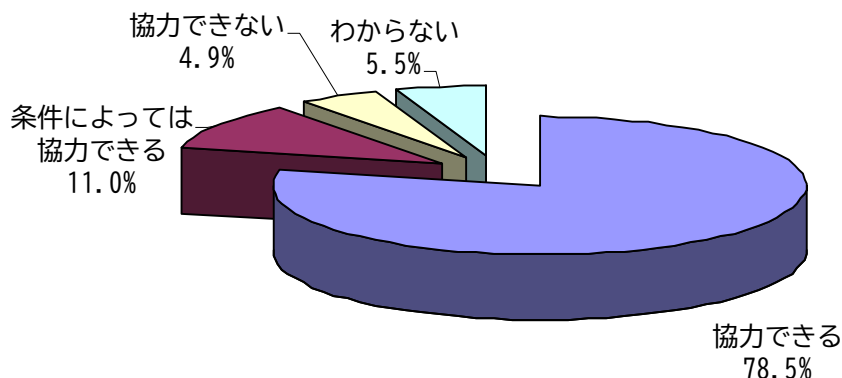
- ・連絡が遅い。仕事が間に合わない。判断は前日に！突然朝の連絡は気が滅入る。やってられない
- ・対象世帯が基本高齢なので朝が早い…そのため早くから自主的に自宅前の除雪を始めているのでプレッシャーをかけられている様に感じる人もいるのでは？
- ・人手が足りなく人捜しに10月末から忙しかったです
- ・町中では「排雪置場」の確保が大変です。被対象者の「支援に対する意識や理解度」も大切です
- ・雪が多い日ほど自宅も含め数件の除雪作業になりますので、疲労します

問 14 拡大していくために必要な点

回答のあった 78 件の内, 13 件が協力員の確保や高齢化への対応についての回答であった。その他の意見は様々である

- ・もう少し協力員を多くしたり、時期をみて町内会や協力者に感謝状を贈ると喜んでもらえると思います
- ・他人に依頼しようとする高齢者が居る。あくまで本人の血筋で行うことを強調すべき
- ・退職されたOB（元市役所、元公務員たち）から町内活動に理解され、啓蒙・育成を少しずつ行うことが必要かと思う
- ・市民の理解と、実施している地域の実情をあさひばし等でPR等をしてみては
- ・被支援者も支援者も「支援」の大切さを十分理解していることが一番です。両者が誤った感覚を持った時は本事業は成り立ちません
- ・協力費は無い方が良い。（協力費があるから協力者にならないと言う声もある）あくまで、地域で支えるボランティアであるべき

問 15 引き続き協力者として活動することは可能か



回答者のうち約8割が「協力できる」と答えており、「条件によっては協力できる」

を加えると約9割の方が引き続き協力をするという意向を示している。

「条件によっては協力できる」という回答18名のうち、健康や高齢を理由としている者が10名で、協力費に関する者は3名であった。3名のうち1名は「協力費が無ければ率先して取り組みたい。」と回答している。またこの回答数18名を協力費ごとに分類すると、5,500円の地区が6名、6,600円の地区が3名、7,200円の地区が7名、不明が2名となっている。

「協力できない」という回答を寄せた8名のうち、5名が年齢や体調のことで不可能であると回答しており、自宅の作業で手一杯との回答が2名、その他1名であり、協力費に関する回答はなかった。ちなみに、8名のうち、5名が7,200円、3名が5,500円の協力費の地区である。

問 16 それ以外の意見

- ・テレビや新聞等で除雪支援事業の有意義を皆様に周知させる様にしてほしい
- ・多少の降雪でも対象者宅に出向かなければ、どうして来ないのか等申し出る人がいる。除雪の説明しているにも係わらず雪が降ったら必ず来てくれるものと思っている（勘違い）
- ・自力では出来ない方の家周辺の除雪なのであまり細かな取組は必要なく（個によって色々ケース）あくまでもボランティアで町内で寄り添う形で対応して行けたらいいと思います。（近々我が家も支援して貰う立場です）
- ・0:00～2:00頃除雪車が入っても早朝に降雪があった場合、出勤命令が出ても境が不明なときが非常に困る。対象世帯でも自力でやっている方はこの制度不必要では。申込時に充分確認して許可を出すようにお願いします
- ・別の問題ですが、空き家の間口の除雪について誰もしないので通れなくなり、私たちが除雪している訳で、何とかならないのかな？
- ・本事業の取組によって除排雪に係わる市の財政的効果や高齢者支援に係わる事業効果を具体的にかつ定量的に情報を公開して貰いたい。事業拡大のためにも…
- ・この取組は良いと思っていますが、自宅前、ゴミステーション、間口除雪と1時間半位かかります。体力的に若い人にして貰う事を考えて下さい
- ・役所の方からのメールは4件位しか来てませんが、実際はメールが来なくても行っていたので（雪が積もった日）、金額配当の見直しをお願いします
- ・協力費をいただけるのはありがたいですが、間口除雪のみへの協力費は、現実の除雪支援のほんの一部なので、町内会の支援等とあわせ、総合的な協力費の検討を望みます
- ・シーズンで3から4回で1軒15分くらいの取り組みで、協力費が多すぎるのではないか。お金目的で行う方も居るので、真のボランティアとは言えない。協力費が無くても支える地域作りが必要